俺の兄貴はプロ野球選手

羽後響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
俺の兄貴はプロ野球選手

【Ｎコード】
Ｎ８９９５Ｙ

【作者名】
羽後響

【あらすじ】
主人公の「篠田大輔」は中学時代野球部に所属していたが、通り名は「応援団のエース」。高校は中堅進学校の「聖翔高校」に入学することになり、帰宅部でだらだらした毎日を繰り返していただけだった。
しかし、兄「将大」は地元強豪校「聖葉学院」が前年の甲子園準優勝を勝ちとる原動力となったエースであった。
その兄がプロで１年目にも関わらず活躍する姿に触発されて野球部入部を決意するのであった。

1回表（プロローグ）

「お～！！篠田、３球団競合の末ドラフト1位で、阪神シャークス入団が決定しました！！」

「大輔あんた、将大だからっていつまでテレビ見てんのよ」母、紫が声を荒げる。

「うっせーな」

こんなやり取りはもう何年もやっている。だが、今年に関しては今までと違った。

なんせ、ドラフト1位のやつは憎たらしいことにも俺の兄、将大なのだから。

兄と俺は3つ違い。俺が小学校の野球チームに入団することを許されたのは3年からで、その時兄はすでにチームのエース左腕だった。

中学2年の終わりごろにはすでに県屈指の強豪校「聖葉学院」から勧誘が来てたとか来てなかったとか。

「聖葉エース篠田、圧巻の完封劇！！」
こんな記事をスポーツ紙でよく見かけ、親父が言うには「メジャーリーグ、国内合わせて１０チーム以上のスカウトが来てたらしいぞ。まあ、俺の息子だからな！あははは！！」だそうだ。

今までの話でわかるように俺はプロ野球選手の弟だ。当の俺はというと、それはそれは素晴らしいピッチャーで、剛速球をぶんぶん放り投げて、三振を取りまくるエースである！！・・・

なんて妄想を引っ提げて入部したもののピッチャーどころか「応援団のエースだな！！大輔！！」だそうだ。

まあ、実際３年間公式戦出場０のポジションすら決まっていないようなド３流選手にはちょうどいい称号かもしれない。

中学の卒業式。相変わらず長い校長の話と来賓紹介が終わり、卒業証書授与だ。

そして俺の番。「篠田大輔君」「はいっ！」俺は人一倍大きな声で返事をする。このときの一瞬会場内がざわつくのはお約束ってところか？

そのあと「流石応援団のエースだな！」などとからかわれたのは言

うまでもない。
と、まあ卒業式は何事もなく終わったのだがそこからが大波乱だった。

中学最後のホームルームが終わって一息ついていると何かに野球部が群がっている。

「おい福田、何やってんだよ。なんかいるのか？」福田とは同じ野球部で俺と2人で「応援団のダブルエース」と呼ばれていた男だ。
「は？だってお前よォ！阪神ドラ1の篠田さんがいるんだぜ！？みんなサインをもらおうって並んでんだよ」

おい・・・ちょっと待て・・・確かに今日は俺の卒業式だから家族が総出で祝うのは当然だとは思うが、よりによって兄貴がクラスの前に来るなんて、ありえねーだろ！！

「おい、馬鹿兄貴！！何やってんだよ！！あ・・・」サインをもらおうとしていたやつら全員の視線が俺に集まった。誰にもこいつが兄であることを明かしていなかったのだから当然か・・・

そのあとのことは・・・忘れさせてくれ・・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8995y/

俺の兄貴はプロ野球選手

2011年11月26日23時50分発行